

「輝く雪」のまち

ぬまた町

# みんなの議会

2011年10月  
第47号



笑顔がいつぱいの秋

## 主な内容

平成23年第3回定例会議案	P 2
決議された意見書	P 3
町長への一般質問	P 4～P 6
農業委員会会長 教育長への一般質問	P 7
議会の動き 北空知議連中央要望	P 8
各委員会所管調査	P 9
みんなの広場	P 10
あとがき	P 10



▲豊作でリフト隊も大忙し

# 平成23年 第3回定例会 9月15日

九月十五日に平成二十三年の第三回定例会が開催されました。

## 上程された主な議案

### ◎平成二十二年度、一般会計及び水道事業会計の決算認定

平成二十二年度の一般会計及び水道事業会計の認定は、決算審査特別委員会（議長と監査委員を除く八議員で構成）に付託されました。同特別委員会の委員長には津川副議長、副委員長には長原議員が選任され、十月二十四日から二十八日までの日程で審査が行われます。（詳細は次号に掲載）

### ◎専決処分の承認

#### 平成二十三年度一般会計

この春退職された町職員が、在職中の時間外手当の追加支給を求めて訴訟を起こし、労働審判になっています。

応訴ための弁護士費用五十万円を予算計上しました。尚、公判等の日程等から八月三十一日付けで、専決処分（議会の決議を経ずに執行）が行われ承認されました。

### ◎パスポートの交付事務を深川市へ委託

道の権限委譲を受けパスポート発給の準備を進めて来ましたが、北空知一市三町での広域対応とし、深川市に事務委託をしました。十月三日より行われています。

### ◎町税条例の改正

本年六月三十日付けで地方税法が改正となったことから、寄附の税額控除を行う適用下限額の改正、町税不申告に対する罰則金の改正が行われました。

### ◎一般会計補正予算

平成二十三年度予算に、一億八千四百八十二万円を追加し、総額を四十四億三千五百五十七万円としました。

#### ▽歳出

- ・沼田厚生病院の損失助成に、一億五千七百一十三万円。（国の特別交付税で、一億二千九百一十万円が補填されます。）
- ・公用車（トヨタ・ウイッシュ）の代替として、ワゴン車を購入します。三百五十万八千円。岩寺一之氏より寄附された三百万円が充当されます。
- ・自動車学校のトイレ改修に四十八万三千円。
- ・萌の丘記念碑設置工事に二百十万円。

西田篤正前町長から寄附された二百万円を、ふるさとづくり基金に積み立てて充当されます。

デザイナービズセンター等の運営を委託している社会福祉協議会より、益金である千五百三万円が寄



住民の健康を守る沼田厚生病院

附されました。全額を社会福祉基金に積み立てます。

#### ▽歳入

- ・国の交付税と道の補助金等が、一億六千三百四十六万円の増加。
- ・寄附金が千八百三万円。
- ・光ファイバー通信網の貸付収入が八十五万円の増加。

### ◎国保特別会計補正予算

退職被保険者等の高額医療費が増加したことから、百三十八万円の増額補正を行いました。

### ◎教育委員の任命

現委員の日暮茂男氏が任期満了となります。引き続き同氏の再任に同意しました。

### ◎公平委員の選任

現委員の斉藤義夫氏が任期満了となります。引き続き同氏の再任に同意しました。

## 第6回臨時議会 8月25日

### ◎専決処分の承認 介護保険特別会計

次年度より始まる第五期の新計画策定のため、事務経費を計上しました。予算の総額に変更はありません。事務処理の日程から専決処分が行われました。

### ◎沼田小学校改築工事（電気設備）の請負契約

7月に契約不調に終わった電気設備工事の再入札が行われました。契約を締結する旨の議決を行いました。

# 3つの意見書が議決されました

## 森林・林業・木材産業政策の積極的な展開に関する意見書



1. 山林相続税などによる森林経営対策。
2. カーボンストック減税など木材利用の拡大。
3. 森林と林業の再生に向けた取り組みの推進。
4. 国による一体的な管理運営体制の確立。
5. 東日本大震災などからの森林・林業再生。
6. 木質バイオマスなど再生可能エネルギー活用。
7. 10年後の木材自給率50%以上の達成。
8. 新たな林業技術労働者（「フォレスター」「森林施業プランナー」など）の育成と確保。

## 平成24年度 農業予算編成ならびに税制改正に関する意見書



1. 日本経済・社会の再建と国内農業対策。震災と原発から農林漁業の再建を最優先に。
2. 包括的経済連携などの貿易交渉対策。TPP交渉への参加は断じて行わないこと。
3. 政策の安定的継続と財源確保。「戸別所得補償制度」の法制化など中長期的に安定して継続する政策とすること。
4. 基盤整備や研究費など、生産基盤の確保対策。
5. 軽油引取税やA重油の課税免除措置の恒久化。

■この他に、議会では下記の陳情もいただきました。

## 「ごみゼロ社会」を作るために、拡大生産者責任(EPR)とデポジット制度の法制化を求める陳情書

「大量リサイクル」による出口対策のみでは、ゴミ問題は解決できない。そこで、処理・リサイクル費用のすべてを製品価格に含めた『拡大生産者責任(EPR)』と、使い捨て容器を販売店に戻せば換金できる『デポジット制度』の導入が必要である。

上記の陳情は議論の結果、下記の理由により定例議会には提出いたしませんでした。

1. 時期尚早。
2. 議会が理解するために、さらに勉強する必要がある。

■議会ではこのように、皆様からの「請願」や「陳情」を受け付けております。是非、ご活用ください。

## 免税軽油制度などの恒久化を求める意見書



1. 平成24年3月末で廃止予定の軽油取引税の免税を恒久化。ちなみに平成21年度の免税措置は、農家一戸あたり約14万円を受けている。
2. 農林と漁業用A重油に対する石油石炭税の特例措置を恒久化。A重油は農業用ハウス暖房や船舶などに幅広く使用され、基幹産業の育成や地域経済の振興に貢献している。
3. 地球温暖化対策税、とくに全油種の燃料への課税は、農業者の負担が増えることのないよう。

## 町長への一般質問

### 問 商工業者に対する緊急利子補給制度の充実を

答 すぐには出来ないが、実態を調査して判断する



高田 勲  
議員

**問** 商工業者が借り入れしている資金（国の政策金融公庫・道の制度融資）の利息については平成二十年度から一％の利子補給をしていただいています。

商工会から要望書が提出されていることから、本年度も「緊急利子補給」を実施する用意があるか。

町融資を受けている事業所は三十五件程度ですが、金利の安い国や道の資金を利用してはいる事業者は九十件程度あります。商工業者も経費削減等に努力しながら経営を続けていますが、競争の激化と購買人口の流出で、近年特に厳しい経営を余儀なくされています。



商工業者の活動拠点 観光情報プラザ

### 高田勲議員のそのほかの質問

**問** 震災の影響で途切れたが、

来年はポートハーティ市に訪問団を派遣すべきだ。子どもたちに平等に機会を与えるためにも派遣したい。

**問** 商工業者の経営の厳しさや努力は十分に理解します。商工会



支援対象者が圧倒的に多い、国と道の融資に対する「緊急利子補給」を充実させ、利子の補給率を現在の一％から一・五％程度に引き上げて支援することが出来ないか。

から要望が上がっている「緊急利子補給」については、十二月の定例会にて提案したいと考えています。

この「緊急利子補給」は近隣では沼田町しか行っていません。また、リフォーム事業も当初予算をオーバーして受け付けました。本年の利子補給は従来どおり一％を考えています。

今後については、商工会役員との懇談会を予定しているの、実態を伺いながら判断して行きたいと考えています。

### 問 町民ふれあい懇談会の

中身をすべて公開して下さい

答 九月中旬に公開します



久保 元宏  
議員

**問** 最近の「町民ふれあい懇談会」は町民の出席の減少や、町との議論が噛み合わない傾向にあったが、七月の会は大勢の町民が参加し、意見も活発に出すばらしかった。この吸い上がって来た全ての意見

『広報めまた』9月号(手前)と、町ホームページ(奥)に公開。今後、ホーム・ページなどで報告の追加もしてゆく

を『町民意見バンク』として常に全町民の共有財産としながら、町の未来について考えていく機会を作ってはいかがか。あえて、全ての意見にこだわるのは、ネガティブな意見や町と誤差のある意見も含めて全て回収することによって町と町民の意見の乖離をどんどん無くし、両者の心をひとつに修正する貴重なソースであるからだ。さらにそれら

全てに町の考え、対応、保留の理由、その後にされた対応なども併記すべきだが？



今までしてこなかったが、個人の問題以外は、つぶさに住民と共有する。今後の色んな話し合いのために、九月中旬にホームページと図書館で公表するので、ご確認いただきたい。

## 問「JA北いぶき」との連携を

### どの様に考えているか

答 連絡、連携を密にして協議を進めたい



渡辺 敏昭  
議員

問 一、「JA北いぶき」と農業対策を進める上で、三町連携が重要と考えます。三町の農業総合関連予算はどの様に使われているのか。三町連携の農業政策を考えていないのか。

二、重要案件の農業後継者対策に「JA北いぶき」とどの様な対策を考えているか。

三、「JA北いぶき」の第四次中期計画の関連要請の内容はどの様なものか。



先ず、三町の総合予算については、秩父別町が産業後継者育成、新農業開発交付金、農業後継者奨学金貸付などに六百二万円、妹背牛町が農業振興推進協議会、ハーブ植栽、農産物PR、研修生

受入れなどに八百万円、沼田町はハウス導入事業、土作り推進事業、農地流動化対策、有害鳥獣対策などに一千四百七十六万円余りです。三町連携の農業対策については、担当課長レベルで行なっていますので、連絡、連携を密にして関係を深めたいと思っています。後継者対策については、意欲を持って農業をやるう



と言う青年が増えていますし、沼田農業元気塾の開講式の折、北いぶき組合長から、三地区でこの様な事業をいっしょにやる事を提案されていますので、これらを引きつけて、他町、JAと協議を進めたいと思っています。

第四次中期計画では、生産資材店舗の縮小、妹背牛スタンドの縮小または廃止、生活事業部店舗の縮小、車両事業の沼田車両センターへの集約などが主なものです。店舗の問題は農業振興を進めるうえで重要な問題ですから今後の動静を見ながら慎重に協議したいと考えています。

## 問 次期農業振興計画のコンセプトは

### 答 第八次農業振興計画の骨子を

#### 予算編成までに間に合わせたい



鶴野 範之  
議員

問 農業、農村を取り巻く環境は農畜産物価格の低迷や資材の高騰などによる農業所得の減少、さらに農業人口の減少、後継者不足による急激な農地の流動化、また一方ではTPPなど難しい環境にあり今後の農業、地域経済にも大きな影響を及ぼすと考えられる。

本町の利雪型農業の取り組みも、ファクトリー建設以来あまり進まず、これも一五年以上経ち新たな取り組みが期待されている。

こうした中、今年度で第七次沼田町農業振興計画が終了するが、大きな転換期を迎え沼田農業の構築をどう目指すか。



第七次の取り組みに付いては農業総合対策事業の中で行なっています。

それなりの効果があったと認識しています。次期計

画に向けての策定にまだスタートしておりませんが、次年度の政策予算的に間に合うよう早急に骨子を進めたい。

今後の沼田の農業の姿は新たな視点、施策も当然必要だと思えますし、後継者認定農業者が安心してできる所得政策も含め必要と思えます。

農業所得額の設定には色々な家庭、経営形態があるので策定の中で協議され、問題点を含め金額も明示されると思います。



## 問 支援センターでの農業実習を多くできないか

答 作業の内容等も含め検討していきたい



己内勝 議員

**問** 就農支援センターは、保護観察中の少年達が農業を通して社会復帰するための厚生施設であります。現在は、椎茸中心の実習が多く、農業実習が少ないのが現状です。

実際の就農訓練が生かされていないようです。

又、一年間の期間を満たさずに辞める少年も多いと聞きます、

農業実習のありかたについて、又、途中で辞める少年達が多い原因は何か、町長の考えを聞かせていただきたい。



支援センターも

四年目を迎え、この間、色々な問題があった事も認識しております。

地元の就業支援センターの監察官とも充分な話が出来ておりません。

来年に向けて実習の内容、椎茸の問題、作業内容の問題など総合的に見直す時期に来ている認識しております。

又、途中で出て行かれる方には、個人的な理由があると思います。

対応の問題、人との環境、実習の中身の問題、沼田に来て自分の思いと違っていた等、個人個人の考えがあり、一概に原因は特定できません。

過去の事例をお聞きしながらの施策も必要と思っております。



4年目を迎えた実習農場

## 問 ライスファクトリーの投資効果をどのように評価しているか

答 計り知れない効果があったと理解している



夫保 中村 議員

**問** 平成八年にライスファクトリーが建設され、それまでの農作業形態が一変するとともに、雪中米効果もあり、沼田産米の評価が非常に高まりました。

沼田町の農家は等しく、当時の決断・英断に感謝をしております。

町としての投資効果をどのように評価しているか。

また、今後このような投資計画・投資依頼があった場合、応じる用意があるか。

現在、Aコープ店舗の老朽化が指摘されており、建て替えが必要です。

雇用の場の確保や町づくりの核としてなくすわけにはいきませんが、町として投資・支援が必要ではないか。

### 財政課長説明

平成八年からの一連の投資総額は二十八億六千万であり、そのうち、農家・農協で負担した額は四億三千万、町の一般財源からの負担分は三億七千万であります。



ライスファクトリーについては、町負担の数字には現れない

確かな計り知れない効果があったと理解しております。

農協本館の建替えについては、財源や条例の問題もあります。農業を守る立場からも前向きに考えてまいります。

一般の営利団体・企業に税金の投入はできませんが、買い物難民を出さないことや街づくりの観点から、解決策を模索してまいります。



## 農業委員会会長への一般質問

### 問 農家の配偶者対策にどう取り組むか

答 J Aや行政と協力して解決策を模索したい

中村 保夫 議員

**問** 沼田町の農家数も二〇〇戸を割り込み、一戸当たりの経営面積もいっばいいっばいのところまで来ています。

法人化・協業化の胎動はあるものの、これ以上の戸数減は遊休農地の発生を招きかねません。

離農の要因にはいろいろありましたが、パートナーがいないことによる離農も懸念されます。

配偶者のいない農家は何人くらいいるか。

農業委員会として、どのような対策をしているか。

### 山岡農業委員会会長答

七月の農業委員会で会長に就任させていただきました。よろしく願います。

現状、配偶者のいない農家は五十六戸となっております。



答弁する山岡会長

そのうち、すでに経営主になつていのは二十四戸です。

配偶者問題は、沼田町農業の方向性を左右する課題であり、憂慮しております。

農業委員会としては平成十三年から結婚相談協議会を休止しており、独自の活動はほとんどありません。

北空知の中でも沼田の配偶者不足は突出しておりますので、今後、J Aや行政と協力して解決策を模索したいと思えます。

## 教育長への一般質問

### 問 広域連携で、沼田の子供達の学力の底上げを

答 スポーツについては、実施例があります



上野 敏夫 議員

的取り組みについて、具体的な議論に至っておりませんが、管内教育長同士集まる機会を通じ前向きに考え

### 問

子供の学力の底上げについて、沼田の子供達も、北空知広域的に連携を取りながら地域のイベント、それぞれの町での講演、又、札幌方面での芸術鑑賞、音楽鑑賞等に子供達を連れて行ける様な教育も必要ではないか。

更に、子供が少なく、スポーツ、部活、文化活動にも支障をきたしていると思えます。子供達がこうした部活が出来るように、北空知の中での取り組みをしていただきたい。

### 教育長答

現状では、子供達の才能を高める為の広域



子供達にも好評だった渡部陽一講演会

たいと思っています。部活については、一つの町で対応できず北空知の中学校でバレーボールを二つの学校で一つのチームで中体連に参加した所もあります。その他バスケット、野球など秩父別との合同チームでの練習、試合をした事がありました。

# 北空知議会議長 連絡協議会中央要望

八月八日より八月十日の日程で北空知議会議長連絡協議会中央要望が実施され、当町の議会から高田議員が副団長として又、長原議員が団員として参加しました。

# 議会の動き



一日目は、神奈川県かわさき市民活動センターにて研修をおこないました。小倉理事長より当センターについての説明がありました。行政と市民の中間支援組織として広報活動、市民相談窓口を設けての情報収集、活動の為にリーダーづくり、新たな組織作りを行い、広範囲な活動を行っています。児童保育も小学校単位で受け入れ、当センターで運営しています。



二日目は、衆議院会館にて小平忠正議員に要望書を提出し、併せて国政報告をしていただきました。その中で、個別所得補償は継続させ法制化を目指すとして強く話されていました。TPP問題についても時間がかなり「農業を別枠にしなければ」と言われました。この後、稲津久議員、小川勝也議員、徳永エリ議員、伊達忠一議員、長谷川岳議員、紙智子議員に要望書を提出しました。

## 総務省への要望

深川の議員より、医局制度改正による地方の医師不足の問題、地方の公立病院の財政的支援の拡充を求め、要望がありました。総務省自治財政局山中課長補佐より、「平成十九年度以降ガイドラインをもとに各病院に改革プランの作成をお願いしています。過疎地、救急病院等に、交付税による財政支援を、年次増額している」とのことです。

## 農水省への要望

基盤整備担当二名、農振担当、農地転用担当、所得補償担当、担い手育成担当、TPP担当、国際連携担当各一名、総勢八名の課長補佐、係長、専門官が対応して頂き、基盤整備の予算の拡充による早期完工、個別所得補償制度の安定的持続、TPP問題等、今回の要望をふまえ説明をいただきました。その後、各議員より質疑、意見交換を行いました。



# 総務民教常任委員会

## テーマ◎『地域資源の活用について』の視察

日程	現場	内容	沼田町へのヒント
10月12日(水) 清里町	①清里町商工会	提案型の事務局長による各種補助金事業の有効利用。	報告書などの手間を恐れず、嗅覚を持って補助金事業を探し出そう。
	②清里町焼酎醸造事業所	日本初のジャガイモ焼酎。	小ロットの工夫による新商品開発。
	③農家のパン屋 麦香房 	農家が商工会の会員になり、空き店舗を利用して地場の小麦粉100%のパン屋を創業。町民の手芸などの販売や喫茶コーナーも併設。	商工会と農協の二元論を、観光協会などの組織で乗り越え、お互いの利点を生かしつつ、町民の自己責任において新しい産業を生んでもらうという道もあるかもしれない。
13日(木) 美幌町	④美幌商工会議所 	地元の高校で育てた豚を、商工会議所が加工食品にしたり、飲食店がメニュー導入。	できるだけ町内の複数の団体を通してさせながら、新商品というシンボルを作り、町民の一体化を計る。
	⑤そばの かね久総本山	飲食店の立場での試行錯誤。	町内で外食する文化を育てる仕掛け。
	⑥レストラン スパイス ラボラトリー	地元の豚でハンバーグを作り、東京の有名店とコラボ。	常に中央と結びつくことにより、全国への情報発信を画策する。

# 産建福祉常任委員会

## テーマ◎『農地の流動化の現状と今後の見込み』の概論



道営 経営体育育成基盤整備事業

沼田町は平成十二年から農地流動化対策を行っている先進地です。この事業は、遊休農地を出さないために五〇〇〜七〇〇畝を対象に始めました。とても意義のある事業ですが、開始から十二年が経過したこともあり、このタイミングで事業の検証と今後の沼田町内の農地の流動化を検討いたします。進めるに当たり農業委員会、土地改良区、農協との意見交換会を行なっています。十一月に鶴川町で視察を行い、その後に報告書をまとめる予定です。

年齢区分別経営面積戸数

(単位：戸)

30才未満	31～35才	36～40才	41～45才	46～50才	51～55才
2戸	4戸	17戸	16戸	21戸	24戸
38.7 <small>ヘクタール</small>	101.3 <small>ヘクタール</small>	440.8 <small>ヘクタール</small>	383.3 <small>ヘクタール</small>	426.1 <small>ヘクタール</small>	487.2 <small>ヘクタール</small>
56～60才	61～65才	66才以上	法人	一般	計
28戸	38戸	12戸	6戸	15戸	183戸
704.1 <small>ヘクタール</small>	711.1 <small>ヘクタール</small>	142.1 <small>ヘクタール</small>	340 <small>ヘクタール</small>	58.4 <small>ヘクタール</small>	3833.5 <small>ヘクタール</small>

経営規模別戸数

(単位：戸)

	5 <small>ヘクタール</small> 未満	5～10 <small>ヘクタール</small>	10～15 <small>ヘクタール</small>	15～20 <small>ヘクタール</small>	20～25 <small>ヘクタール</small>	25～30 <small>ヘクタール</small>	30 <small>ヘクタール</small> 以上	計
H12	38	51	81	50	25	14	16	275
	13.8%	18.5%	29.5%	18.2%	9.1%	5.1%	5.8%	100.0%
H23	7	25	34	42	31	15	29	183
	3.8%	13.7%	18.6%	23.0%	16.9%	8.2%	15.8%	100.0%

## 議会事務局の交代

特にスピー  
ーデーな、  
議事録作成

十月一日付けをもって川嶋智書記が転勤されました。川嶋氏は平成二十一年五月着任以来、二年五ヶ月にわたって議会書記として多大な貢献をいただきました。

で広報委員会も大いに助けられました。地域開発課に配属となりましたが、議会事務局の経験を生かし、更に活躍されることを期待します。



十月一日付けをもって吉田正晴氏が地域開発課から議会事務局書記に着任されました。年は若いですが鋭い職員と聞いております。わがまま？な議員にも早く慣れて仕事に邁進されることを望みます。

## あとがき

三月には、東日本大震災という未曾有の災害に見舞われました。

全国民が被災地の復興を願う中で、九月には、台風十二号が日本列島を縦断し、和歌山県新宮市では一時間に百三十一ミリの猛烈な雨が降りました。

かつて、沼田でも五百ミリ近い雨を経験しましたが、奈良県上北山村では累計雨量二千四百三十三ミリの雨が降ったとの事です。これは想像を絶するものです。

僅か半年で、このような災害を見たとき、改めて防災意識を持たなければと思う次第です。

### 広報特別委員

中村保夫 長原 誠  
鶴野範之 久保元宏

## みんなの広場

### 沼田町の未来を支える夜高あんどん祭り

沼田町立沼田小学校 校長 藤森正男



『自分には良いところがあると思いますか？』

これは、子ども達の学力や学習状況を把握することを目的に、平成19年度から文部科学省が始めた「全国学力学習状況調査」にある設問ですが、この設問に対する子ども達の回答の低さが全国的な課題の一つになっています。

『自分には良いところがない。』『自分なんて価値がない。』『自分にはできない。』等、自己に対して否定的な回答をする子どもの割合が高いということです。このことは、私たちが願う、何事にもたくましくチャレンジし、未来を自分の力で切り開いていく子どもの姿から遠く離れてしまっています。そこで、各学校では自分に対しての肯定的な感情である「自尊感情」を高める指導に力を入れようとして取り組んでいるのですが、この自尊感情を高めるということがちょっと厄介な問題なのです。なぜなら、この自尊感情がどのように育ち、高まるのか、まだよくわかっていないからです。たとえば、「成績の良さ」や「運動能力の高さ」が、高い自尊感情につながるわけではないようです。また、「毎日活発に活動している。」ということでも自尊感情が高まるわけでもないようです。

ただ、とても嬉しいことに沼田小学校6年生への調査では、この項目が全国平均よりも高い傾向にあります。沼小の子ども達は、けっこう自信や誇りを持って生活しているようです。私は、このことに『夜高あんどん祭り』が大いに関係しているのではないかと勝手に推測しています。空知に来て8年目。恥ずかしながら、始めて見たあんどん祭りは本当に鳥肌ものでした。あの素晴らしいお祭を、大人とともにしっかり支えているという自負は、子ども達の自尊感情をくすぐるには十分すぎるほどのものだと思うからです。

あんどん祭りが素晴らしい祭りであることは言うまでもありませんが、この祭りは沼田町の未来を支える祭りであるとも思うのですがどうでしょうか。